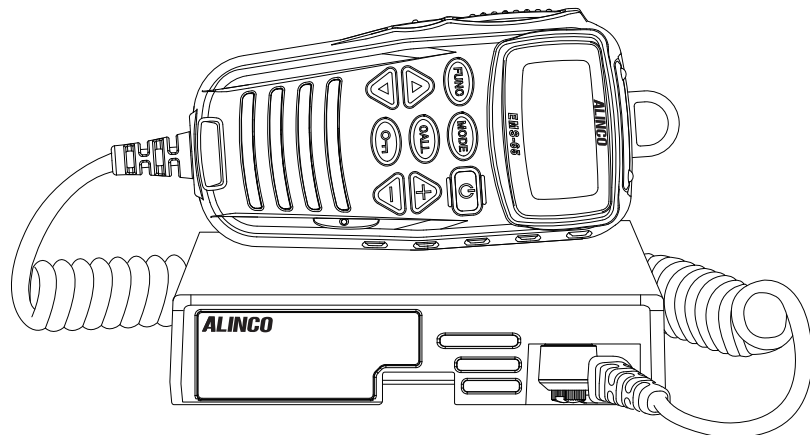
ALINCO

デジタル簡易無線機（総務省技術基準適合品）
RALCWI方式
無線局種別コード：3R（登録局）

DR-DP50M

取扱説明書

<注意>
・本製品をご利用になるためには、無線局の登録申請および開設申請をする必要があります。同梱の申請書類をご参照ください。
　登録申請手続きをしないで運用されますと不法無線局開設により罰則を受けます。
　必ず登録状がお手元に届いたのを確認してからご使用ください。
・音声圧縮（符号化）方式RALCWI以外の無線機とは通話できません。
・本製品にはアンテナや電源は付属していません。別途、本製品に対応するものをご購入下さい。

アルインコデジタルトランシーバーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機の性能を充分に発揮させるために、この取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保管しておいてください。また、補足シートや正誤表が入っている場合は、取扱説明書と合わせて保管してください。

本機は日本国内専用モデルです。海外では使用できません。
This product is intended for use only in Japan.

アルインコ株式会社

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前にお読みください。

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表　示	表示の意味
危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号	表示の意味
△	△ 記号は、注意（危険・警告含む）を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容が描かれています。
⃠	○ 記号は、行為の禁止であることを告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
●	● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合はACアダプターをコンセントから抜け）が描かれています。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因にて通信などの機会を失ったために生じた損害などの純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

危険

DCコード接続の際は、極性を間違えないように十分注意してください。火災・感電・故障の原因となります。赤の配線はプラス(+)極、黒の配線はマイナス(−)極です。

この製品の定格電源、電圧はDC13.8VとDC26.4Vでいわゆる12V車と24V車に自動的に対応します。29V以上の電圧が掛かると故障、火災、感電の原因となります。12V以下、15〜23V程度の電圧だと電源が入らない、定格通りの出力が出ない、などの不具合の原因となります。

必ず付属の電源ケーブルを使ってください。電源ケーブルを細くしたり、長く配線すると火災・感電・故障の原因となります。

万が一内部からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること。そのままにしておくと、目に傷害が起きることがあります。

■使用環境・条件

無線局の登録状の有効期限は5年です。登録状の範囲を超えた運用や登録状を取得しない運用はしないでください。不法無線局となり、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金を課せられます。

分解・改造・修理しないこと。取扱説明書に記載されている場合を除き、ケースなどを外し、内部にふれることはさけてください。火災・感電・けがの原因になります。(改造は電波法違反になります。)

周りに花びんなど、液体の入った容器を置かないこと。液体がこぼれて防浸加工されていない所に水が入ると、火災・感電の原因となります。
本体やマイクに水がかかった場合、乾いた布でふきとることをおすすめします。
湿度の高い所や、冷たい所から急に温かい所へ移動しますと、製品に露がつく場合があります。露がつくと製品の動作に悪影響を与え、故障の原因となりますので、よく乾燥させ、露をよく取り除いてからご使用ください。

長時間の連続送信はしないでください。発熱のため本体の温度が上昇しますので、やけどをしないようにご注意ください。運用直後、本体の放熱部に触れないでください。

電源コードを折り曲げたり、ねじったり、傷つけたり、熱器具に近づけたり、加熱しないでください。故障の原因となります。

DC コードを加工したり、ヒューズホルダーを取り除いて使用することは絶対にしないでください。火災・故障の原因となります。

ぬれた手で電源コードに触れないこと。感電のおそれがありますので絶対にしないでください。

引火性のガスの発生場所では、電源を入れないこと。発火の原因となります。

この製品を使用できるのは、日本国内の陸上のみです。上空、海上や国外では使用できません。

電子機器（特に医療機器）の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。

内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺、病院内では絶対に使用しないでください（電源も入れないでください）。運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたしたり、医療機器が故障・誤動作する原因となります。

この製品を人命救助などの目的で使用して、万一、故障・誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

この製品どうし、または他の無線機とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障・誤動作・不具合の原因となります。

この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

指定以外のオプションや他社のアクセサリー製品を接続しないでください。故障の原因となります。特にアンテナは指定のもの以外を使用すると電波法に違反します。

本機の故障、電波環境や使用場所の状況などから通信できなかったことで発生した、逸失利益に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

■運転中の無線機の使用について

車載型無線機を運転手が走行中に運用する際は、安全運転を最大限優先してください。操作パネルを走行中に注視していると道路交通法違反で罰せられる可能性があります。

外部の音が聞こえないような状態にして運転しないでください。外部アンプや、大型スピーカーをつないで廻りの音が聞こえないような大音量で受信したり、耳を完全に覆うタイプのヘッドホンを使ったりすると罰せられることがあります。一部の地方自治体では運転中にイヤホン・ヘッドホン類を使用すること自体を規制していますので、ご不明な点は最寄りの警察署などにお尋ねください。

■トランシーバー本体の取り扱いについて

イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。

トランシーバーは調整済みです。このトランシーバーをユーザーが改造、仕様変更することは法律で禁止されています。

布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。

後述の説明以外の条件で水をかけたり、水が入ったりしないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。

水などでぬれやすい場所（風呂場など）では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

■異常時の処置について

以下の場合は、すぐ本体の電源をOFFにして、DCケーブルを抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または当社サービスセンターにご連絡ください。お客様による修理は、法令により禁止されていますので、絶対にお止めください。

■異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
■落としたり、ケースを破損したりしたとき
■内部に水や異物が入ったとき
■DCケーブルのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

雷が鳴り出したら、屋外での使用時には安全のため本体の電源をOFFにし、DCケーブルを抜いて、ご使用をお控えください。本製品は雷に対する保護や保証は致しておりません。

■保守・点検

本体のケースは、開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。

⚠注意

■使用環境・条件

テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。

湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりして故障やけがの原因となることがあります。

幼児の手の届くところには置かないこと。けがなど事故の原因となります。

磁気カードなどを近づけないこと。無線機に内蔵されている磁石や磁気を帯びた部品で、フロッピーディスクやキャッシュカードなどの内容が消去される場合があります。

直射日光の強いところや炎天下の車などに長時間放置しないこと。発熱・発火・故障の原因となります。プラスチックやビニールなどが多用されるマイクなどのアクセサリーは熱や日光で劣化しますので特にご注意ください。

電子機器に影響を与える場合は使用しないこと。自動車内で使用した場合、車種によりまれに車両電子機器に影響を与えるものがあります。そのような場合は使用しないでください。チューナー・テレビなど、他の機器に影響を与えるようなときは、距離を離して設置してください。

本機をハイブリッドカー、電気自動車でご使用になる場合、車両に搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

防浸ですが、防水ではありません。ぬらさないように心掛けてください。

普通のゴミと一緒に捨てないこと。発火・環境破壊の原因となります。

アンテナ端子には50Ω系の同軸ケーブルを使用して、指定のアンテナを接続してください。同軸ケーブルやアンテナのインピーダンスが異なっていたり、アンテナの調整が不完全なときには、他の電子機器の動作に影響を与える原因となります。

放熱をよくするため、無線機はできるだけ囲わないように設置してください。

車載用としてご使用の場合は、電源コードを車のバッテリー端子に直接接続してください。シガーライターソケットへは接続しないでください。シガーライターソケットは取り出せる電流容量が小さいため、この製品の電源としては不適切な場合があります。

雷に対する保護はなされていません。雷が接近している時や、発生が予想される時は屋外につながるアンテナケーブルや電源コードを無線機から外してください。雷は直撃以外にもこれらのケーブルに高い電圧がかかり故障を起こす原因になります。

隣接して駐車した自動車間での通話など、極端にアンテナ間の距離が近い場合、高出力で送信するとお互いの無線機に悪影響を及ぼすことがあります。極端に近い距離に通話相手がいる時は、お互いにローパワーに切り換えて通話する事をおすすめします。

直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■トランシーバー本体の取り扱いについて

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源をOFFにして、DCケーブルを抜いてください。

電源コード、マイクコードは無理に引っぱったり引き抜いたりしないでください。故障の原因となります。

■保守・点検

お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源をOFFにして、DCケーブルを抜いてください。

汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。
ベンジン、シンナー、アルコール、洗剤などを使うと外装や文字が変質したり、ショートを誘発して故障する恐れがあります。
美観上以外にトランシーバーを長く正常にお使いいただくために定期的な清掃は大変有効です。

■耐塵防浸性能について

この製品は、弊社の設計段階で外郭保護等級IP67規格の耐塵防浸試験に合格しており、保護カバー類を正しく閉めるなど指定の条件を満たしていれば、雨や雪、埃っぽい環境の中でもお使いいただけます。但し砂嵐のような風圧や流水のような水圧が掛かる環境下での性能を保証する物ではありません。金属製、油性、酸や塩分・化学物質を含む等、特殊な粉塵や液体の場合は製品に使われている素材や部品に付着して腐食、劣化や故障の原因になりますが、保証の対象外ですのでご了承ください。また、出荷前に個別検査を行わない「相当品」ですので、汚れたり濡れたりした時は埃を払い、乾いた布で拭くなどのメンテナンスを心がけていただくと永く正常な状態でお使いになれます。保護に使われているカバーやシールドの素材は経年劣化のため変質し、保護性能が低下します。弊社では外郭の保護性能についても製品と同じ一年を保証期間とさせていただきます。尚、耐塵、防浸等の言葉が直感的に分かりにくいことから、カタログや説明書の文中では「防塵」「防水」などの言葉で表現する場合があります。

◆◆◆ 使用前のご注意 ◆◆◆

■電波法上のご注意
・本機はデジタル簡易無線登録局です。使用するにはあらかじめ、登録・開設申請が必要になります。
・他局の通信を妨害したり、傍受した内容を他に漏らしたり、傍受した内容を盗用することは法律で固く禁じられており、違反すると罰せられます。
・本機は日本国内の陸上でのみお使いになれます。海上、上空、海外での使用は違法となり罰せられます。
・他人への貸し出しには手続きが必要です。詳しくは管轄の総合通信局におたずねください。

■使用場所により無線機の使用が規制されている場所があります。次のような場所では使用しないでください。
（航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、病院内など）

■本機を分解、改造したり、本体底面に貼り付けてある証明ラベルを剥がして使用することは法律で固く禁じられています。

■高温、多湿、直射日光の当たるところ、ほこりの多い場所は避けてお使いください。劣化を早める原因になります。

■通信の出来る距離は周囲の状況によって大きく異なります。本機に採用されている電波は直進性が高く、間に建物や山等の障害物があると通信できる距離が短くなります。

■海外では法律や周波数の割り当てが異なるため使用できません。
This product is intended for use only in Japan.

■販売店で事前にプログラミングされている場合、本書に書かれた機能の一部は制限されていることがあります。詳しくは、プログラミングした販売店にお問い合わせください。

◆◆◆ 機能と特徴 ◆◆◆

■改正電波法準拠で2022年12月1日以降も使えるデジタル方式（DCR-Digital Convenience Radio）トランシーバーです。業務でも、レジャーでも、目的を選ばず使えます。

■秘話通信により32,767通りから選べるコードが合致しないと通話ができない高い秘話性をもっています。

■5W機だからパワフルで通話エリアがグンと広がります。

■DC-DCコンバータを使わずにそのまま12V/24V車に対応します。

■IP67相当の耐塵防浸で、雨や雪、水まわりの現場などでも安心して使えます。

■話したい人を指定して呼び出すことも、グループ全員を一斉呼び出しすることも自由自在。

■付属のマイクロホンなら700mW、外部スピーカー出力なら3Wの大音量オーディオ出力、CALLキー、ベル、キーロック、子機間通話禁止、APO、各種ビープ音やマイク感度の設定などの定番機能搭載。

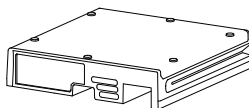
■別売ケーブル（ERW-7）を使用しパソコンと本機を接続すると、拡張機能「ショートメッセージ機能」「ショックセンサー」などが利用可能になります。

■音声圧縮（符号化）方式RALCWIを採用しました。音声圧縮（符号化）方式RALCWI以外のデジタルトランシーバーとは通話できません。
弊社製DJ-DP10・DJ-DP50HのようなRALCWI方式のデジタルトランシーバーと通話ができます。

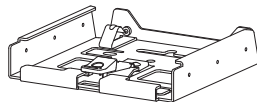
お使いになる前に

付属品の確認

本製品には以下のものが付属しています。ご使用前に確認してください。

□本機

□マイクロホン　EMS-65

□DCケーブル　UA0086

□モービルブラケット

□予備ヒューズ×2個
(5A　125V)

□マイクハンガー　FM0385

□取り付けネジセット

ネジ	タップタイトネジ	タッピングネジ	六角ナット	スプリングワッシャー	平ワッシャー
(M5×12)×4個	(M3×8)×2個	(M5×20)×4個	(M5)×4個	×4個	×4個

□取扱説明書(本書)
□申請書類一式
□保証書

注意 保証書に購入の日付が記載されていないときは、レシートを保証書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類が無いと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。

弊社純正、または弊社が認めたアクセサリー以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理になります。他の無線機メーカー製オプション品が使えるかどうかは検証していないので、ご使用は推奨できません。アクセサリー専業メーカーの製品であれば、そのメーカーにお問い合わせください。

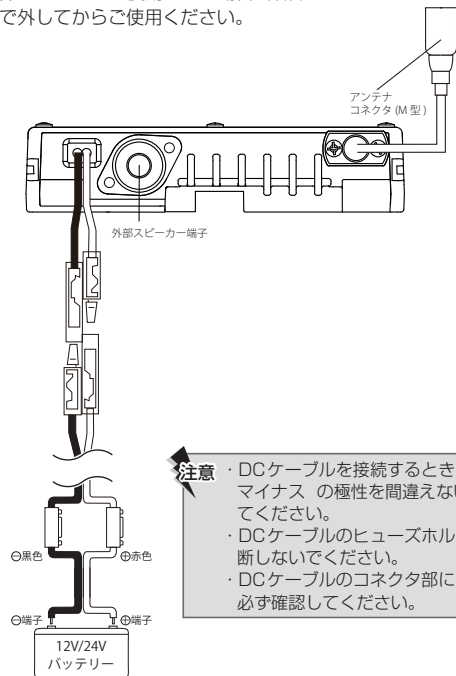
電源の接続と設置方法

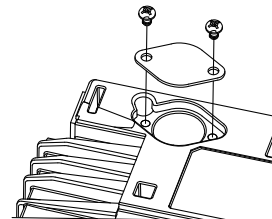
本機の設置や取り付けには、プラスドライバーなどの簡単な工具が必要です。設置を始める前に本章をお読みの上、必要に応じた工具をご用意ください。

通話距離について

・本機は使用するアンテナの種類、アンテナの設置場所、高さ、使用する同軸ケーブルの種類や長さによって通話できる距離に大きな差が出るため定量的には言えませんが、数kmから数十kmの範囲が目安です。

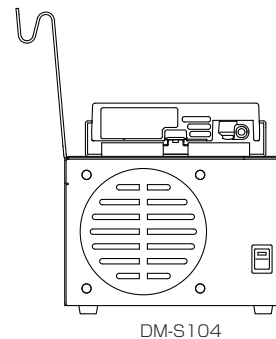
■電源・アンテナ・外部スピーカーの接続

電源は車のバッテリー(12/24V)に、直接付属のDCケーブルで接続して下さい。
リアパネル右上のアンテナケーブル先のコネクタにアンテナの同軸ケーブルを接続しリングネジを締めます。
本機のアンテナコネクターは汎用性が高く、使いやすいインチ・ミリ両用(M/PL)タイプを採用しています。専用のものに比べて嵌め合いに遊びが多く感じられますが、異常ではありません。
外部スピーカーを使用される場合、保護カバーとゴムリングをプラスドライバで外してからご使用ください。

注意
・DCケーブルを接続するときは⊕プラスと⊖マイナス の極性を間違えないように注意してください。
・DCケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。
・DCケーブルのコネクタ部にゆるみがないか必ず確認してください。

外した保護カバー・ゴムリング・ネジの 3 点は本機底部の定格シート貼付部右上の穴に収納してください。

注意
・本機の出力インピーダンスは50Ωです。アンテナ、同軸ケーブル、トランシーバーの間のインピーダンスが異なると、送信出力低下による故障の原因や、他の電子機器(テレビなど)の動作に影響を与えることがあります。
・外部スピーカーを使用しないときは、防水のため保護カバー・ゴムリングを取り付けてください。
・保護カバーやゴムリングなどは、破損・紛失に十分ご注意ください。これらに異常がある場合は、正しく装着されていても防水性を確保できません。

■固定(屋内設置)で運用する場合

ご家庭でご使用になるなど、固定局として本機をご使用になる場合、別売の無線通信機用電源(DM-S104)をご使用ください。取り付け、接続方法などについては、DM-S104付属の取扱説明書をご参照ください。

DM-S104

注意
・接続前には、必ず電源がOFFになっているかを確かめてください。

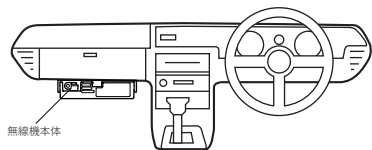
■モービル(自動車)で運用する場合

モービル(自動車)運用では、なによりも安全運転を優先してください。次の手順に従って、接続してください。

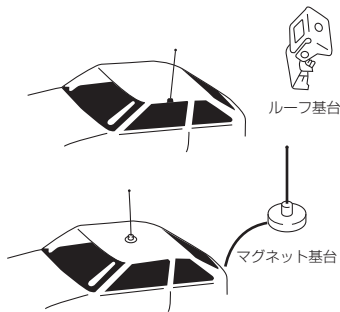
●取り付け場所
車種によりレイアウトは異なりますが、操作性、安全運転の面から最適と思われる場所を選んでください。

次のような場所は避けてください。

- ・ひざが本機にあたる場所やエアバッグの動作に支障のある場所
- ・直接振動が伝わる場所
- ・カーヒータの吹き出し口など、車内温度が高くなる場所
- ・マイクがハンドルなどに引っかかるような場所

注意 ・ETC やカーナビなど電子機器からなるべく離して設置してください。

■モービルアンテナの取り付け

DCRの規格に準拠して製造された、市販のアンテナを使って、モービルアンテナを車に取り付けます。走行中に脱落することがないように、しっかりと固定してください。

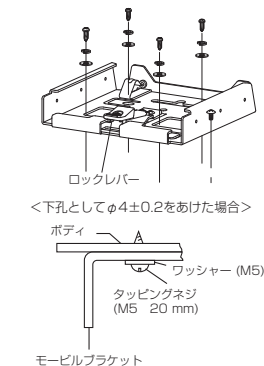
アンテナの同軸ケーブルを、本機に接続します。接続については(☞P,9)を参照してください。

■自動車への取り付け

ここでは、グローブボックス下に取り付ける場合について説明します。

モーブルブラケットをグローブボックス下の適切な位置に取り付けます。付属のワッシャー (4個)とタッピングネジ(4本)で取り付けてください。

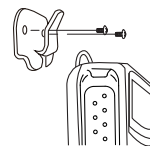
＜下孔としてφ4±0.2をあけた場合＞

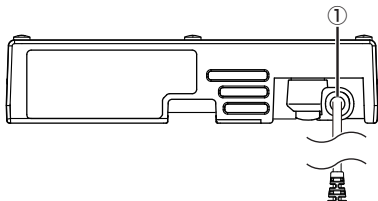
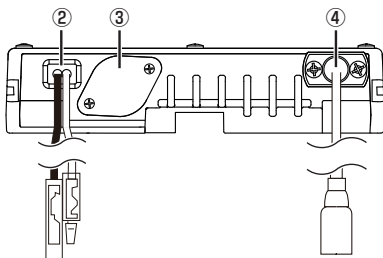
モービルブラケットのガイド部分に、本機側面にある溝を合わせ、カチッと鳴るまでスライドさせて固定します。

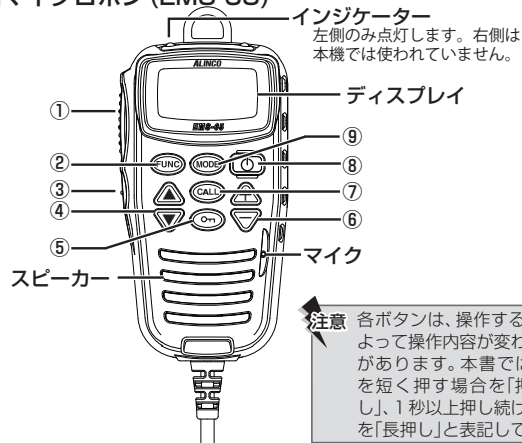
本機を取りはずすときは、モービルブラケット上のロックレバーを押しながら、本機を手前にスライドさせてください。

注意 マイクロホンを持って強く引っ張らないでください。本体が飛び出しケガをする可能性があります。

■マイクハンガーの取り付け

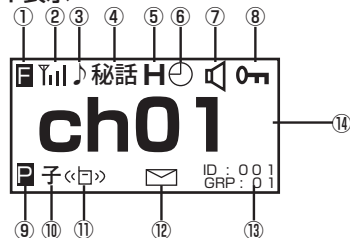
マイクハンガーは右図のように、タップタイトネジ(M3×8mm)×2をプラスドライバーでしめて取り付けます。

注意
- ・直射日光が当る場所はさけてください。夏の日射しが液晶部に当ると 一時的に画面が黒くなり見えなくなります。冷却すると元に戻ります。また、直射日光はプラスチックの様な外観部品を劣化させる原因になります。
- ・設置や取り付けに使用するネジは、付属または指定のものをお使いください。長すぎると機器内部のショート、短すぎると取り付け不安定となり、マイクが落下してディスプレイ部が割れるなどの故障の原因となります。

本体の名称と動作

■フロントパネル

■リアパネル

No.	名称	機能
①	マイクロホン	付属のマイクロホン(EMS-65)が接続されています。
②	DC電源コード	DC電源を接続します。
③	保護カバー	外部スピーカージャックのカバーです。外部スピーカーを使用しないときは、防水の為に外さないでください。このジャックはERW-7を接続する時にも使用します。(☞P,24)
④	アンテナコネクタ	DCRの規格に準拠して製造された市販のアンテナ(インピーダンス50Ωを接続してください。)

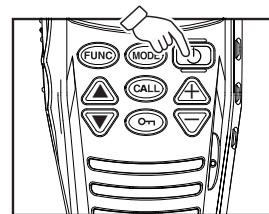
■マイクロホン(EMS-65)

注意 各ボタンは、操作する時間によって操作内容が変わる場合があります。本書では、キーを短く押す場合を「押す、押し」、1秒以上押し続ける場合を「長押し」と表記しています。

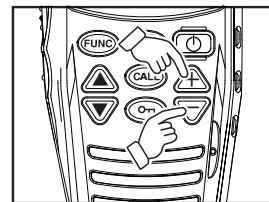
No.	名称	機能
①	PTTキー	押すと送信します。離すと受信に切り替わります。
②	FUNCキー	「FUNC」キーを押すとFが点灯してFUNCモードになります。
③	MONIキー	押すとモニター機能(☞P,12)が動作します。
④	▲/▼キー	チャンネル・各設定値・設定項目のUP/DOWN
⑤	⊶ キー	長押しするとキーロック(☞P,18)が動作します。
⑥	+/− キー	音量を調整します。
⑦	CALLキー	各設定値や個別通信時の相手局などが表示されているときに押すと設定値(全部、または一部)が点滅して、変更可能になります。 約3秒間押すと緊急通報機能(☞P,18)やプライベートチャンネル機能(☞P,17)を動作させます。
⑧	⏻ [POWER]キー	長押しすると電源をON/OFFします。
⑨	MODEキー	各種モードの変更や設定値変更時の桁移動に使用します。

■ディスプレイ表示

	説　明	
①	F	「FUNC」キーを押したとき点灯します。
②	Yıl	受信した電波と送信出力のレベルに応じて三段階に点灯します。送信時には出力のレベルを表示します。 Yıl 5W　Yı 2W　Y 1W
③	♪	ベル機能設定時(☞P,20)に点灯します。
④	秘話	秘話設定時(☞P,22)に点灯します。
⑤	H/M/L/☒	送信時の出力設定と送信禁止状態を表示します。
⑥	◷	オートパワーオフ機能動作時(☞P,22)に点灯します。
⑦	🔈	マイクロホンスピーカー設定(☞P,23)がONのとき点灯します。
⑧	O⊤	キーロック動作時(☞P,18)に点灯します。
⑨	P	プライベートチャンネル(☞P,17)のときに点灯します。
⑩	子	子機間通話禁止機能で子機設定時(☞P,22)に点灯します。
⑪	‹‹□››	ショックセンサー動作時(☞P,24)に点灯します。
⑫	✉	ショートメッセージ受信時(☞P,24)に点灯します。
⑬	ID : 001 GRP : 01	自局のIDやグループが表示されます。
⑭	ch01	送信・受信チャンネル番号や各設定内容を表示します。

3 基本操作

■電源を入れる

⏻[POWER]キーを長押しすると電源が入ります。
電源を切るときも同じ操作をします。

■音量を調整する

音量調節範囲は0～42までの43段階です。「＋」キーまたは「－」キーを押して受信しながら適切な音量に調整してください。
何も音が出ていない状態での音量調整は「MONI」キーを押して、ザーという雑音を聞きながら調整します。

■チャンネルを合わせる

「▲」キーまたは「▼」キーを押してch01～ch30を選択します。
キーを押している間連続してチャンネルが切替わります。

■モニター機能

「MONI」キーを押している間、設定したユーザーコードに関わらず音声をモニターする機能です。
注意：秘話通信を設定している信号をモニターすると「ギャラギャラ」とノイズのような音が聞こえますが通話内容を聞き取ることはできません。
信号を受信していない時は、ザーという雑音が出ます。

■受信する

信号を受信すると、インジケーターが緑に点灯し、受信した信号レベルに応じてディスプレイのアンテナアイコンが表示され、通話条件を満たしているとき音声が聞こえるようになります。(個別通信のときは相手局の個別IDが表示されます。)
アンテナのバーの数が多いほど、強い信号を受信している事を示します。

■送信する

「PTT」キーを押すと、インジケーターが赤色に点灯し送信状態になります。
「PTT」キーを押しながら、マイクに向かって話します。マイクと口元は約5cm程離してください。
「PTT」キーを離すと受信待ち受け状態に戻ります。

重要
- DCRトランシーバーは送信を開始してから相手に音声が聞こえるまで若干の遅延があります、「PTT」キーを押したら一呼吸置いてからお話しください。
- マイクに向かって話すとき、声が大きすぎたり口元が近すぎたりすると、送信音が歪み(ひずみ)ますのでご注意ください。
- 連続送信等により本機の内部温度が上がると、自動的に送信出力をローパワーに切り換える機能が備わっています。温度が下がるとまた元に戻ります。特に24Vご使用時は温度が上がりやすいので注意してください。外付けDC-DCコンバーターを既にお使いであれば、そこから12V電源を取る方が内部発熱を抑えることができます。

■送信する相手を決める (個別通信のとき(☞P.15))

個別通信で相手局の個別ID・グループを指定するときは、「CALL」キーを押して表示を点滅させ「▲」・「▼」キーで相手局を選択し(個別IDを指定して送信するとき、「CALL」キーを押して点滅するのは、個別IDの一桁目だけです。「MODE」キーを押すと二桁目、三桁目と点滅する桁が変わります。)、もう一度「CALL」キーを押すことで決定します。

通信前のご注意

全てのデジタルトランシーバーには電波法に基づく下記の制限が設けられています。

キャリアセンス

通信中のチャンネルで送信操作を行うと、表示と音で警告し、送信できなくする機能です。
先に通話中の人に妨害を与えないために設けられています。

送信時間制限装置

1回の送信で連続して送信できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。
連続した送信が5分を超えると自動的に送信を停止しその後1分間は送信できなくなります。
チャンネルの独占や無駄な長話を防いでなるべく多くの人がチャンネルを共有して使えるようにするために設けられています。
送信時間制限が働く前に警告音を鳴らすことができます。(☞P.22)

通信の互換性について

DR-DP50Mは音声圧縮方式RALCWIを採用しており、本書を編集している時点では弊社製RALCWI方式のDCR無線機以外に通話ができる機種は他メーカーから発売されておりません。(AMBE+2™ 等、別方式を採用したDCRとは一切通信できません。)

通信方法

DR-DP50Mで使用できる通信モードの概要と操作方法を紹介します。

ユーザーコード通信

セットモード「通信モード」でユーザーコード通信を選択しているとき、この通信方式になります。(☞P.21)
ユーザーコード通信は、同じチャンネルに合わせていても、ユーザーコードが一致している人同士だけでしか通信できない方式です。

ユーザーコードはセットモード「ユーザーコードの設定」(☞P.21)により000～511の中から選ぶことができます。
通信したいグループのメンバー全員に同じコードを設定してください。

参考　ユーザーコードとは特定小電力トランシーバーの「グループトーク」、業務やアマチュア無線の「トーンスケルチ」と似た機能です。

■ユーザーコード通信の手順

①電源を入れます。

②チャンネルを合わせます。

③一旦電源を切って、セットモードの「通信モード」にて「ユーザーコード通信」を選びます。(☞P.21)

通信ﾓｰﾄﾞ
ﾕｰｻﾞｰｺｰﾄﾞ 通信

④同じくセットモードで「ユーザーコードの設定」を選んでコードを合わせます。(☞P.21)

⑤「CALL」キーを押して変更内容を確定した後、「PTT」キーを押してセットモードを解除します。

⑥「MODE」キーを押すことでチャンネルだけの表示とチャンネルとコードの表示とを切替できます。

以上で、ユーザーコード通信が出来るようになります。

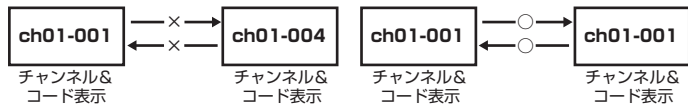
注意　ユーザーコード通信と個別通信(☞P.15)では通話できません、どちらかの通信方式に統一してお使いください。

ユーザーコード通信時の画面にはチャンネルだけ表示しているものとチャンネルとコードを表示しているものがあります。
それぞれの表示のときに送受信の動きが違いますので、使用状況に合わせてお選びください。

■チャンネルだけが表示されているとき

ユーザーコードが設定されていません。
後述の秘話が使われていない信号であれば全て通信できます。(自分に秘話設定した場合は通信できません。)

■チャンネルとコードが表示されているとき

ユーザーコードが設定されています。
ユーザーコードが一致する信号のみ通話できます。

個別通信

セットモード「通信モード」で個別通信を選択しているとき、この通信方式になります。(☞P.21)
個別通信では、ユーザーコードが一致している複数の通話相手を個人、グループ、全員のように指定して呼び出すことができます。
ご自分のID・グループをセットモードであらかじめ設定してからお使い下さい。

■個別通信の設定

①電源を入れます。

②セットモードの「通信モード」にて「個別通信」を選びます。(☞P.21)

③同じくセットモードで「ユーザーコードの設定」を選んでコードを合わせます。(☞P.21)

通信ﾓｰﾄﾞ
個別通信

④セットモードの「自局ID」・「グループ」にて自分のID・グループをそれぞれ設定します。(☞P.21,22)

⑤「CALL」キーを押して変更内容を確定した後、「PTT」キーを押してセットモードを解除します。

⑥「MODE」キーを押すことで個人・グループ・全員と通話相手を切替えることができます。

個別通信の手順は次ページから説明します。

注意 ユーザーコード通信(☞P.14)と個別通信では通信できません、どちらかの通話方式に統一してお使いください。

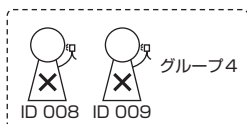
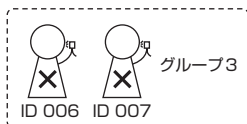
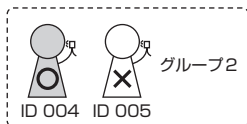
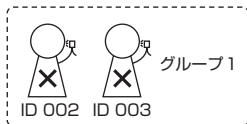
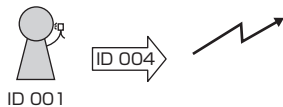
個別通信時の通常画面には個別表示・グループ表示・ALL表示の３種類があります。
通話には自分・相手とも個別通信モードでユーザーコードが一致している必要があります。

■個別表示のとき

特定の一人だけを呼び出せます。

・最大で999の個別IDが設定できます。
・同じ個別IDを複数の人に割り当てることもできます。
　この場合はグループ呼び出しのように同じ個別IDの人全員をまとめて呼び出します。

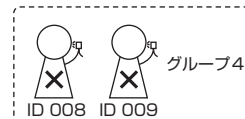
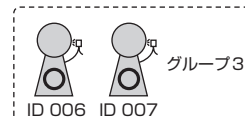
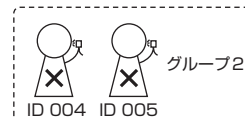
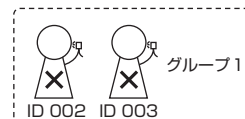
「CALL」キーを押して「相手局の個別ID」を点滅させてから「▲」・「▼」キーで相手局を選択します。このとき「MODE」キーを押すと表示点滅の桁が移動します。もう一度「CALL」キーを押して点滅を止めると選択が決定します。

＜例＞
ID番号004の人を呼びたいとき

■グループ表示のとき

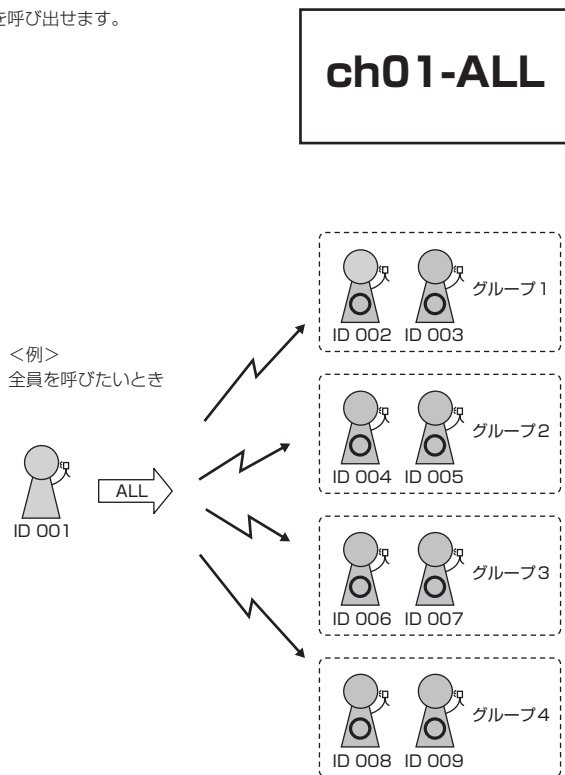
選択したグループを呼び出せます。

G01 ～ G10の10組、設定できます。

「CALL」キーを押して「グループ」を点滅させてから「▲」・「▼」キーでグループを選択します。もう一度「CALL」キーを押して点滅を止めると選択が決定します。

＜例＞
グループ3のメンバーを呼びたいとき

■ALL表示のとき

全員を呼び出せます。

ch01-ALL

秘話通信

秘話キーの一致した無線機間でのみ通話できる機能です。
秘話ID1 ～ 30に32,767通りの秘話キーをそれぞれ割り当ててお使いいただけます。
(あらかじめ工場出荷時に秘話IDを割り当てておりますが、セットモードの「秘話設定」(☞P.22)にて自由に変更ができます。

秘話
秘話選択
1(12345)

秘話
秘話キー詳細設定
1(12345)

注意 秘話キーが一致しない時に信号を受信すると「ギャラギャラ」とノイズの様な音が聞こえます。

プライベートチャンネル機能

特定のチャンネルをプライベートチャンネルとして設定することで、よく使うチャンネルとの切替を簡単にします。
セットモード「CALLキーの役割」を「プライベートCH呼出」に設定し(☞P.22)、セットモード「プライベートチャンネル設定」にてチャンネルを設定してご利用ください。(☞P.22)
「CALL」キーを約3秒押し続けていると設定された、プライベートチャンネルに移行します。このとき左下にアイコンPが点灯します。
もう一度「CALL」キーを押し続けると元のチャンネルに戻りプライベートチャンネルを解除します。

呼出ch15
P

呼び出し用チャンネル(ch15)

ch15は呼び出し用チャンネルとなっており、ユーザーコード通信・個別通信・秘話通信はできません(設定もできません)。また、このチャンネルは呼び出し用チャンネルですので通話相手を呼び出した後は別のチャンネルに移ってから通話してください。

6 便利な機能

キーロック

使用時に誤ってキーが操作されることを防ぐ機能です。「 」キーを２秒以上押すとキーロックが設定され、ディスプレイに「鍵アイコン」が点灯します。キーロック時、送信、モニター機能、音量調整、緊急通報機能、電源のON/OFFの操作のみが可能です。キーロックを解除するときはもう一度「 」キーを２秒以上押して「鍵アイコン」を消してください。

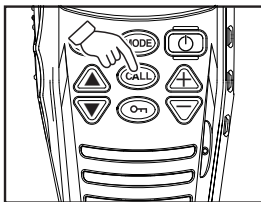
リセット

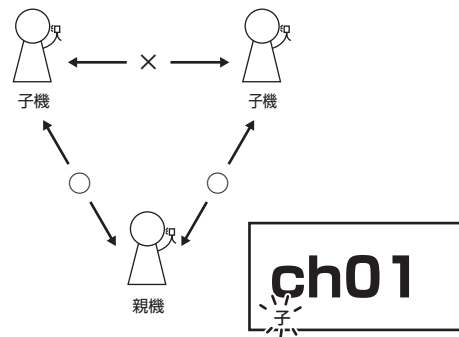
一度電源を切り「MONI」キー「 」キーを押しながら電源を入れると「RESET」が表示され、そこから再度「CALL」キーを押すとご購入時の初期状態になります。

RESET

参考 販売店によって納入前に各設定がプログラミングされている時は、リセットが使えないことがあります。

緊急通報機能

「CALL」キーを約３秒押すことで、自分・相手ともアラーム音がなり、相手に自分のIDを知らせます。
自分はもう一度「CALL」キーを約３秒、相手は「PTT」キーを押すことでアラームが止まり表示が元に戻ります。
セットモードの「CALLキーの役割」を「エマージェンシー」に設定してからご利用ください。(☞P.22)

子機間通話禁止機能

親機と子機間のみ通信可能にし、子機どうしの通信は禁止させることができるモードです。(親機どおしの通信は可能です。)
セットモード「子機間通話禁止機能」(☞P.22)で親機と子機をあらかじめ設定してからご使用下さい。子機に設定されると「子機アイコン」が点灯します。

参考 この機能を使わないときはセットモードの設定を変えないでください。この機能を使うときだけ設定を子機にしてお使いください。

セットモード

DR-DP50Mをもっと使いやすくするために、各種機能の動作をカスタマイズできます。

セットモード一覧

■簡易セットモード

項　目	表示項目	初期値	設定値	参照
送信出力設定	送信ﾊﾟﾜｰ	High	OFF/Low/Middle/High	P.20
スケルチ調整	ｽｹﾙﾁ	2	1～9	P.20
エンドピー	エンドピー	OFF	OFF/ON	P.20
マイク感度	ﾏｲｸ感度	標準	低い / 標準 / 高い	P.20
ベル機能	BELL	OFF	OFF/ON	P.20
ビープ音量設定	ビープ音量設定	2	OFF/1～4	P.20
PTT ビープ	PTT ビープ	OFF	OFF/ON	P.21

■セットモード

項　目	表示項目	初期値	設定値	参照
通信モード	通信ﾓｰﾄﾞ	ユーザーコード通信	ﾕｰｻﾞｰｺｰﾄﾞ通信 / 個別通信	P.21
ユーザーコードの設定	ﾕｰｻﾞｰｺｰﾄﾞ	000	000～511	P.21
自局 ID	自局 ID	001	001～999	P.21
個別呼出時の切り替え	個別呼出時の切替	OFF (切替なし)	OFF/5 秒 /10 秒 /30 秒 /60 秒 /完全に切り替わる	P.21
GRP（グループ時）呼出時の切り替え	GRP 呼出時の切替	OFF (切替なし)	OFF/5 秒 /10 秒 /30 秒 /60 秒 /完全に切り替わる	P.21
全員呼出時の切り替え	全員呼出時の切替	OFF (切替なし)	OFF/5 秒 /10 秒 /30 秒 /60 秒 /完全に切り替わる	P.21
[▲] [▼] キー単独の動作	▲▼キー単独の動作	チャンネル変更	チャンネル変更 / 個別モードの ID 変更	P.21
相手局 ID の選択	相手局 ID の選択	全ての ID	全ての ID/ 名前のある ID のみ	P.22
グループ	自局のｸﾞﾙｰﾌﾟ	01	01～10	P.22
秘話設定	秘話選択	OFF	OFF/1～30 (00001～32767)	P.22
CALL キーの役割	CALL キーの役割	プライベートCH 呼出	エマージェンシー / プライベートCH 呼出	P.22
プライベートチャンネル設定	ﾌﾟﾗｲﾍﾞｰﾄCH 番号	15	1～30	P.22
子機間通話禁止機能	子機間通話禁止	親機	親機 / 子機	P.22
送信制限警告音	送信制限警告	ON	OFF/ON	P.22
オートパワーオフ	APO	OFF	OFF/30 分 /1～6 時間	P.22
表示タイマー	表示ﾀｲﾏｰ	OFF	OFF(常灯)/5・10・30 秒 /1 分	P.23
コントラスト設定	ｺﾝﾄﾗｽﾄ	8	1～10	P.23
照明設定	照明設定	5 秒	消灯 /5・10・20・30 秒 / 常灯	P.23
明るさ設定	明るさ	普通	暗い / 標準 / 明るい	P.23
ﾏｲｸﾛﾎﾝｽﾋﾟｰｶｰ設定	ﾏｲｸﾛﾎﾝｽﾋﾟｰｶｰ	ON	OFF/ON	P.23
ﾃﾞｭｱﾙｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ機能	Dual Operation	OFF	OFF/ON	P.23
デュアルメインチャンネル設定	Dual main CH	1	1～30	P.24
デュアルサブチャンネル設定	Dual sub CH	2	1～30	P.24
デュアル再開時間設定	Dual Timer	5 秒	1～10 秒	P.24
上空用チャンネル設定	上空用チャンネル	OFF	OFF/ON	P.24

簡易セットモード

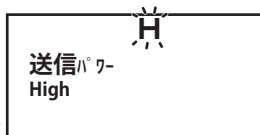
●簡易セットモードの設定方法

①「FUNC」キーを押した後Fアイコンが表示されている間に「MODE」キーを押して簡易セットモードに入ります。
②「▲」・「▼」キーを押して設定したい項目に合わせます。
③「CALL」キーを押して設定値を点滅させて「▲」・「▼」キーで設定内容を変更します。
④もう一度「CALL」キーを押して設定内容の点滅を止めると設定が決定します。
⑤「PTT」キーを押すと簡易セットモードから通常の通話ができる状態に戻ります。

■送信出力設定

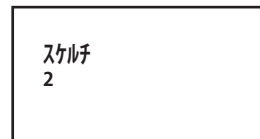
H
送信ﾊﾟﾜｰ
High

送信出力を設定します。

High　:送信出力5W (「H」が点灯します。)
Middle:送信出力2W (「M」が点灯します。)
Low　:送信出力1W (「L」が点灯します。)
OFF　:送信しない　(「☒」が点灯します。)
　　　受信専用の端末としてもご利用できます。

参考　送信出力を小さくすると、発熱しにくくなります。

■スケルチ調整

ｽｹﾙﾁ
2

信号の強さによって受信ができるレベルを設定できます。
スケルチレベルは1 ～ 9の間で設定できます。例えば、弱い信号を受信したい時はレベルを低く、逆に強い信号の局としか通話したくない時は高めにレベルを設定します。

参考　アナログ無線機のようにレベル最低時に「ザー」とノイズが聞こえることはありません。この設定は頻繁に変える必要はありません。

■エンドピー

エンドピー
OFF

送信側でPTTを離したときに受信側でピー音を鳴らし、送信の終了を確実に受信側に伝えるための機能です。受信側で設定します。

ON　：有効
OFF：無効

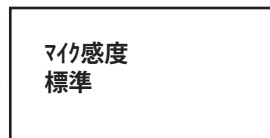
注意　DR-DP50Mは、DR-DP50Mどおしでしか動作しません。

■マイク感度

ﾏｲｸ感度
標準

マイクの感度を設定します。
マイク感度は低い/標準/高いの間で設定します。
音が歪むと言われる時は「低い」に、声が小さいと言われる時は「高い」にします。

■ベル機能

BELL
ON

信号を受信するとベル音とアイコンの点滅でお知らせする機能です。

ON　：有効(ベルアイコンが点灯します。)
OFF：無効

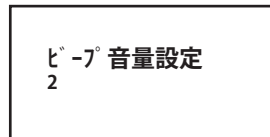
■ビープ音量設定

ﾋﾞｰﾌﾟ音量設定
2

ビープ音の音量を調節することができます。

ビープ音量は1(小)⇔4(大)で設定できOFFにすると鳴らなくなります。但し、ベル,PTTビープ,警告音は設定がOFFでも最小の音量で鳴ります。

■PTT ビープ

PTTﾋﾞｰﾌﾟ
OFF

デジタルトランシーバーでは「PTT」キーを押してすぐに話し出すと、通話の始まりがとぎれて聞こえる「頭切れ」を起こします。この僅かな遅延期間(0.5秒程度)を計り、話してもよいタイミングを「ピッ」音で知らせます。

ON ：有効
OFF：無効

セットモード

●セットモードの設定方法

SET MODE

① 一度電源を切り「CALL」キーを押しながら電源を入れるとセットモードに入ります。(ディスプレイに「SET MODE」と約2秒間表示されます。)
②「▲」・「▼」キーを押して設定したい項目に合わせます。
③「CALL」キーを押して設定値を点滅させて「▲」・「▼」キーで設定内容を変更します。(設定値の桁数が多いときは、設定値が点滅中に「MODE」キーを押すと、桁移動することができます。)
④もう一度「CALL」キーを押して設定内容の点滅を止めると設定が決定します。
⑤「PTT」キーを押すとセットモードから通常の通話ができる状態に戻ります。

■通信モード

通信ﾓｰﾄﾞ
ﾕｰｻﾞｰｺｰﾄﾞ通信

ユーザーコード通信か個別通信かを選択する項目です。

■ユーザーコードの設定

ﾕｰｻﾞｰｺｰﾄﾞ
000

ユーザーコードを000～511の間で選択できます。

■自局 ID

自局ID
001

個別通信で使用する自分用のIDを001～999の間で選択できます。

■個別呼出時の切り替え

個別呼出時の切替
OFF(切替えなし)

個別通信で自局の設定に関係なく個別呼出しされた場合、個別表示に一定時間切り替わった後、元の設定に戻る方式と完全に切り替わる方式を設定できます。

■GRP(グループ)呼出時の切り替え

GRP呼出時の切替
OFF(切替えなし)

個別通信で自局の設定に関係なくグループ呼出しされた場合、グループ表示に一定時間切り替わった後、元の設定に戻る方式と完全に切り替わる方式を設定できます。

■全員呼出時の切り替え

全員呼出時の切替
OFF(切替えなし)

個別通信で自局の設定に関係なく全員呼出しされた場合、ALL表示に一定時間切り替わった後、元の設定に戻る方式と完全に切り替わる方式を設定できます。

■[▲] [▼]キーの単独の動作

▲▼キー単独の動作
チャンネル変更

[▲] [▼]キーを単独で押した時にチャンネル変更か、個別モードのID(またはグループ番号)変更かを設定できます。この設定を変更すると、チャンネル番号切り替え
と ID(またはグループ番号)切り替えとID(またはグループ番号)切り替えの操作方法が入れ替わります。

■相手局IDの選択

すべてのIDを表示するか、名前のあるIDのみを表示するか選択できます。
名前をつけたい場合は、販売店にご相談ください。

相手局IDの選択
全てのID

■グループ

個別通信で使用する、グループ区分を設定します。
最大10のグループ(01 ～ 10)に分けることができます。

自局のｸﾞﾙｰﾌﾟ
01

■秘話設定

秘話通信(☞P,17)で使用するIDとキーを設定します。
①秘話IDの設定
　秘話IDを下記の中から選択できます。
・OFF
・1～30(秘話アイコンが点灯します。)

②秘話キーの設定
　秘話IDが1～30の秘話IDを選択している時(IDは点滅していないとき)に「MODE」キーを押すとIDに割り当てているキーが点滅して変更できるようになります。
　(このとき「MODE」キーを押すと点滅している桁が移動します。)

秘話
秘話選択
1(1 2 3 4 5)

秘話
秘話キー詳細設定
1(1 2 3 4 5)

■CALLキーの役割

「CALL」キーを3秒間押し続けたときの動作を下記のどちらかに割り当てます。

CALLキーの役割
ﾌﾟﾗｲﾍﾞｰﾄCH呼出

エマージェンシー　　：緊急通報機能(☞P,18)
プライベートCH呼出：プライベートチャンネル機能(☞P,17)

■プライベートチャンネル設定

プライベートチャンネルに割り当てるチャンネルを設定します。

ﾌﾟﾗｲﾍﾞｰﾄCH番号
15

■子機間通話禁止機能

子機間通話禁止機能(☞P,18)で親機か子機(「子機アイコン」が点灯します。)かを設定する機能です。

子機間通話禁止
子機
子

注意　この機能を使わない時は、設定を親機のまま変更しないでください。

■送信制限警告音

送信時間制限装置(☞P,13)による、「5分間」の連続送信時間に近づいたことを警告音を鳴らして知らせる機能です。

送信終了30秒前「ピピピ」
送信終了5秒前「ピー」

OFF　:警告音を鳴らさない
ON　 :警告音を鳴らす

送信制限警告
ON

注意　送信時間制限装置が動作すると強制的に受信状態となり、その後1分間は送信できません。

■オートパワーオフ

自動電源オフ(Auto Power Off)設定した時間全くキーを操作しないとビープ音が鳴り自動的に電源が切れます。
OFF/30分/1～6時間から選択できます。

APO
30分

■表示タイマー

チャンネルや相手局の個別ID・グループ等ディスプレイに表示される情報を普段見えなくする機能です。設定した時間無操作が続くか「PTT」キーを押すと回りに見えないように表示を隠します(バーが表示されます。)
OFF(常灯)/5・10・30秒/1分から選択できます。
キー操作をすると通常の画面が表示されます。

設定画面

表示ﾀｲﾏｰ
OFF(常灯)

表示タイマー作動中

— — — —

■コントラスト

ディスプレイ文字の濃さを1〜10の間で調節できます。

ｺﾝﾄﾗｽﾄ
8

■照明設定

ディスプレイの照明の設定です。
消灯/5・10・20・30秒/常灯から選択できます。タイマー(秒)を選ぶと、キー操作後設定した時間が経つか、PTTを押すと消灯します。

照明設定
5秒

■明るさ設定

本機はディスプレイ照明の明るさを、暗い/標準/明るいの3段階で調整することができます。

明るさ
標準

■マイクロホンスピーカー設定

外部スピーカーを使う時に本機のマイクのスピーカーを鳴らすかどうか選べます。

ﾏｲｸﾛﾎﾝｽﾋﾟｰｶｰ
ON

ON　:音を出す。(スピーカーアイコンが点灯します。)
OFF :音を出さない。

警告：この設定をOFFにして外部スピーカーを外すと本機側のマイクスピーカーから音が出ません。(この状態では「スピーカーアイコン」が消えています。)
本機のスピーカーを鳴らすにはこの設定をONに戻してください。

■デュアルオペレーション機能

メイン/サブの2つのチャンネルを1秒ごとに交互に受信し、そのどちらとも通話することができます。ONにすると、ch1とch30の間にデュアルオペレーション専用チャンネルが表示(反転表示)されます。

Dual Operation
OFF

ON :有効
OFF:無効

注意 デュアルオペレーション機能が設定されているときは、モニター機能は使えません。

■デュアルメインチャンネル設定

Dual main CH
1

デュアルオペレーション機能のメイン側のチャンネルを設定します。メイン側を送信するときは、[PTT]キーを押します。

参考 メイン側を受信した場合は「メイン側入感あり」と表示され「ピッ」と音が鳴ります。また、サブ側を受信した場合は「サブ側入感あり」と表示され「ピピッ」と音が鳴ります。

■デュアルサブチャンネル設定

Dual sub CH
2

デュアルオペレーション機能のサブ側のチャンネルを設定します。サブ側を送信するときは、[MONI]キーを押します。

■デュアル再開時間設定

Dual Timer
5

設定値　1～10秒(初期値5秒)
デュアルオペレーション機能動作中、通話が終了してから交互受信が再開するまでの時間を変更することができます。

■上空用チャンネル設定

上空用チャンネル
OFF

上空用チャンネル(S1～S5)の使用を設定します。
OFF ：使用しない
ON ：使用する

注意 上空用チャンネルでは、送信できません。(送信出力表示が☒になります。)

PC拡張機能

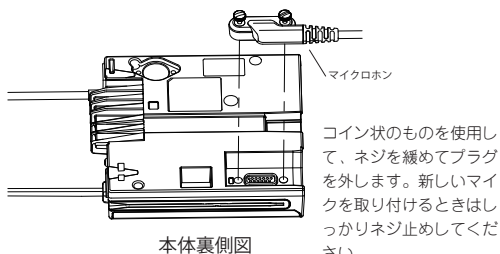
別売のERW-7ケーブルを使い、パソコンから設定をすることでDR-DP50Mの機能を拡張することができます。
詳細は、弊社ホームページ(http://www.alinco.co.jp/→電子事業部)に掲載しています。
・ショートメッセージ機能
　短いメッセージを相手に送ることができます。
・ショックセンサー
　本機のマイク部には振動を感知するセンサーを搭載しています。急に無線機(マイク)を移動させたりすると音や電波を出す機能です。

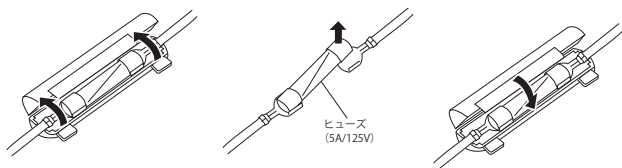
注意 これらの機能は、本機のキー操作では設定できません。

■マイクロホンの取り付け

別売のオプションマイクロホンは下図のように取り付けます。

コイン状のものを使用して、ネジを緩めてプラグを外します。新しいマイクを取り付けるときはしっかりネジ止めしてください。

本体裏側図

■ヒューズの交換

付属のDCケーブルはヒューズ(5A/125V)が2本使われています。ヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、不具合の原因を取り除いたあと下図のようにヒューズを取り換えてください。

注意：スペアヒューズ(5A/125V)をお使いください。
指定外のヒューズの使用は製品の保証対象外となります。

・・・・・・・ 故障とお考えになる前に ・・・・・・・

次のような症状は故障ではありませんので、よくお確かめになってください。処置をしても異常が続くときは、リセット(☞P.18)をすることで症状が回復する場合があります。本機が思うように動かないときは一度リセットを行い、改めて必要な設定をしてください。

症 状	原 因	処 置
電源を入れても、ディスプレイに何も表示されない。	DCケーブルが接触不良を起こしている。	端子の汚れを清潔で乾いた布や綿棒で拭って取り除く。
	電源の(+)端子と(−)端子の接続が逆になっている。	DCケーブル(付属品)の赤色側を(+)端子、黒色側を(−)端子に接続してください。
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を除いたあと、指定容量のヒューズと交換してください。
ディスプレイの表示が暗い。	明るさ設定が[暗い]になっている。	明るさ設定を[標準][明るい]に設定してください。
ディスプレイの表示が異常になっている。	CPUが誤作動している。	リセットする。 DCケーブルを一旦抜いて再度接続してください。
スピーカーから音が出ない。 受信できない。 「ギャラギャラ」音が聞こえる。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定する。
	スケルチレベルが高すぎる。	適切なレベルに調整する。
	「PTT」キーが押され、送信状態になっている。	「PTT」キーを離す。
	マイクロホンスピーカー設定が[OFF]になっている。	マイクロホンスピーカー設定を[ON]にする。
	秘話キーが一致していない。	秘話キーを一致させる、もしくは送信側と受信側の秘話キーをOFFにする。
送信ができない。 送信しても応答がない。	「PTT」キーが確実に押されていない。	「PTT」キーを押して、インジケーターを赤く点灯させる。
	チャンネル(周波数)や通信設定が間違っている。	相手局と通信可能なチャンネル・設定に正しく合わせる。
	キャリアセンスが働いている。	他の電波がなくなるのを待ってから送信する。
	送信出力が[OFF]になっている。	送信出力を[Low],[Middle],[High]にする。

症 状	原 因	処 置
受信できない。	アンテナが接続されていない。	アンテナを確実に接続してください。
チャンネル(周波数)が切替わらない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
	プライベートチャンネルになっている。	「CALL」キーを長押しして元のチャンネルに戻る。
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
ディスプレイに［初期化エラー。電源を切り30秒放置してから再度電源を入れてください。］と表示される。	まれに、無線機が不完全な状態で起動することがあります。	一度電源を切り、30秒放置してから再度電源を入れてください。 電源が切れないときは、DCケーブルを抜くなどして完全オフにした後、再度この操作をしてください。

■無線機の状態に異常があるとその内容を示すエラー表示が出ます。故障を示すエラー表示もあります。その際は、点検・修理が必要になりますので、「アフターサービスについて」をご覧の上、販売店または弊社サービスセンターにご相談ください。

■自動車やバイクなど比較的速い速度で移動する局との通信やアンテナがブラブラ揺れるような状態で使用するとフェージングでエラーが発生して通話が安定しないことがあります。これは走行中の車内では乱れて見えるテレビ画面が停車すると安定するのと同じ理由で発生する、電波伝搬上の理由によるもので異常ではありません。

■秘話や個別・グループ呼出機能を使うと通話距離が若干短くなることがありますが、異常ではありません。

※保護カバーなどの防水パーツは消耗品です。
メーカーによるIP67相当の耐塵防浸性能の保証期間は1年間です。
アフターサービスが必要な場合は、お買上げの販売店にお問い合わせください。
最寄りの販売店の検索には、http://www.alinco.co.jpの「電子事業部→販売店」リンクをご利用ください。

アフターサービスについて

■保証書

保証書は、所定事項(ご購入店名、ご購入日)への記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。ご購入時の記載、またはご購入の日付を証明するレシート等の書類が無い場合は無効となりますので充分ご注意ください。

■保証期間

お買い上げの日より1年間です。
正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に有効な保証書を添えて、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。保証書の規定にしたがって修理いたします。

■保証期間が経過した場合

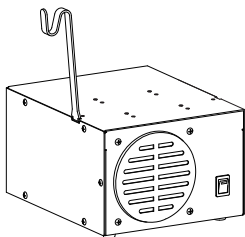
お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。
アフターサービスについてご不明な点がありましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

■製造終了製品に対する保守年限に関して

弊社では製造終了後も下記の期間、製品をお使い頂けるように最低限必要な補修用部品を常備しています。但し不測・不可抗力の事態により在庫部品に異常が発生したような場合はアフターサービスをご提供できなくなることもありますので、あらかじめご了承ください。

補修部品の保有期間は、生産終了後5年です。

保証書に関する事とサービスセンターのご利用方法は弊社ウェブサイトに詳細を掲載しております。

9 オプション一覧

・大型スピーカー付
無線通信機用電源　DM-S104

・マイクロホン (スペア)
EMS-65

・ロングケーブルマイクロホン
（5m ストレートケーブル）
EMS-68

・DCケーブル（スペア）
UA0086

・モービルブラケットセット(スペア)
ADBS104（ネジ付き）

他、取付ネジ、マイクハンガー等の付属品も補修用部品としてご購入が
可能です。ご購入店へご注文下さい。

10 定 格

■一般仕様

送信周波数	351.20000～351.38125MHz　30ch
受信周波数	351.16875～351.38125MHz　30+5 (上空用チャンネル　S1～S5)ch
電波型式	F1E　F1D
アンテナインピーダンス	50Ω
定格電圧	13.8V±10%または、26.4V±10%
消費電流	1.7A以下(送信時：5W) 1.1A以下(送信時：2W) 0.9A以下(送信時：1W) 600mA以下(受信時) 80mA以下(待ち受け時) 30mA以下(電源OFF時) 900mA以下(受信時外部スピーカー)
外形寸法(本体突起物除く) W×H×D	125.0×28.0×130.0mm
重量(EMS-65装着時)	約900g
使用温度範囲	−20℃～+60℃

■送信部

送信出力	5W/2W/1W(偏差：+20%、−50%)
変調方式	4値FSK
周波数偏差	±1.5ppm
占有周波数帯域幅	5.8KHz以下
最大周波数偏移	±1324Hz以内
スプリアス発射強度	2.5uW以下

■受信部

受信感度	−8dBu(BER　1×10^{-2})
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
低周波出力(最大時)	700mW以上　外部3W以上
副次的に発する電波などの強度	4nW以下

本製品はRoHS非対応です。
This product is NOT RoHS compliant and intended for use only where permitted.

■仕様・定格は予告なく変更する場合があります。
■本書の説明用イラストは、実物とは状態や形状が異なる、一部の表示を省略している、等の場合があります。
■本書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。乱丁・落丁はお取り替え致します。

ALINCO アルインコ株式会社 電子事業部

東京営業所 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番21号 八重洲セントラルビル4階 TEL.03-3278-5888
大阪営業所 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号 第3博多偕成ビル7階 TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。
受付時間／10:00～17:00月曜～金曜(祝祭日及び12:00～13:00は除きます)
ホームページ　http://www.alinco.co.jp/ 「電子事業」をご覧ください。

PS0649B
FNEF-NI